

佐賀市 45 歴史探訪

「大銃製造方」と本島藤太夫

“幕末佐賀藩が行った鉄製大砲の製造”、日本で最初にこの偉業を実現したのが「大銃製造方」です。嘉永3年(1850)7月に起工された築地の反射炉で始まった鉄製大砲の製造は、幾多の困難を乗り越え、翌年10月に、ようやく成功しています。この「大銃製造方」のメンバーには、蘭学者や西洋技術者のほか、鋳物師や刀鍛冶など古くから日本に伝わる技術の職人も含まれていました。

今回、紹介する本島藤太夫は、こうした多彩なメンバーからなるプロジェクトチームのリーダーを務めた人物です。

本島藤太夫は、文化7年(1810)生まれで、長く10代藩主鍋島直正(閑叟)の側近を勤め、「大銃製造方」の前身である「火術方」の創設以来、一貫して佐賀藩の軍備面を担当し、直正の軍事政策の実現に奔走しました。

その後、本島藤太夫は、「御台場増築方」「公儀石火矢鑄立方」「蒸気船製造役局」「海軍取調方」などの役職を歴任し、直正の隠居とともに「大殿様御側御目付」に就任しています。

明治3年(1870)には隠居して松蔭と号した後、『松之落葉』を執筆し、明治22年(1889)に亡くなっています。この『松之落葉』は、天保14年(1843)以降の佐賀藩軍備の記録をまとめたもので、勝海舟の『海軍歴史』『陸軍歴史』などにも参照・引用され、現在でも貴重な歴史資料となっています。

一口メモ

本島藤太夫の墓碑は、佐賀市伊勢町の妙覚寺の一角に、ひっそりと残っています。自然石の墓碑で、碑面には「本島松蔭之墓」とだけ刻まれています。



◀ 築地反射炉跡の記念碑



◀ 復元鉄製24ポンドカノン



◀ 本島藤太夫の墓碑

